

## 2023 GR86/BRZ Cup Rd 2 オートポリス 現地レポート

開催日：2023年6月11日

場所：オートポリス

チーム名：TeamTakuty CHIBA SUBARU Racing

参戦車両：SUBARU BRZ 87号車

ドライバー：久保 凜太郎

メカニック：山口 榮(習志野店) 武田 和馬(成田店)



### 6月9日(木)

当日、「練習走行が出来るかも！」との事だったのでお昼過ぎにサーキット入りしたスタッフでしたが、サーキットはあいにくの大雨。この日は走行を中止し、簡単な準備とメンバー紹介が行われました。

今回 87号車を一緒にサポートいただくディーラーメカニック(以下デメカ)は、水足圭吾メカニック(南九州スバル)88号車は皆越瑛太メカニック(福岡スバル)に参加いただきました。

### 6月10日(金)

この日は計5回の練習走行が予定されており、スタッフは早朝からサーキット入り。87号車は前回SUGOの後にフロントサスペンションを交換しているため、アライメントやサスペンションのセッティングを兼ねて走行を続けていきます。今回87号車のチーフメカニックは高橋さん。1回目の走行は9:30～。メカニックたちは初めてのサーキット作業に緊張しながらも、高橋さんからの指示をしっかりとこなす為に丁寧に作業を続けていきます。



SUGOと大きく違う点は、車両のメンテナンスをピットでできる事。SUGOは基本テントで作業でした。

1回の走行枠の中で、何度もピットに入ってはセッティングやタイヤの内圧を変更し、走行を繰り返して行きます。2回目の練習走行のころにはメカニックの緊張もとれ、真剣な眼差しで一つ一つ作業をこなしていくよう



なりました。ドライバーの久保選手も「車両は前回のSUGOから確実に進化していて手ごたえを感じている。残りの練習走行もいろいろ試していきたいと思う」と調子が良さそうです。武田メカニックも「まだ緊張しているが、指示された作業はしっかり確実にこなしていきます」と心強い言葉が返ってきました。

順調にセットアップが進んでいく87号車に対して、88号車はこの時点でなかなかセットアップが決まらず、ちょっと苦戦しているようにも感じました。全部で8本の練習走行があるのでいろいろ試しながら2台のBRZの準備が進んでいきます。

一方で作業には慣れてきた87号車のデメカ達ですが、まだまだコミュニケーション不足で無駄な動きも垣間見えます。真剣な表情で必死に頑張るけど、どこか遠慮がちな87号車のデメカ達。何も言わずにずっと見守っていた私もとうとう痺れを切らし、ちょっとだけアドバイスしてしまいました。みんな真剣に聞き入れてくれたので、すぐ修正してくれました。(けして怒ったりした訳ではないですよ～笑)

普段同じような仕事をしているとはいえ、昨日初めて会ったスタッフ同士がスムーズにコミュニケーションをとれるようになるにはそれなりの時間がかかるもの。でも、たった3日間しかないレースウィークでそんな猶予はありません。一人ひとりが周りを見ながら先を読んで作業を進める事でドライバーの走行テストの時間が増やせる。チームワークが高いからこそ「**良いチーム**」であり、「**勝てるチーム**」になっていきます。彼らもそれをしっかり理解してくれたようでした。そして個人的にうれしかったのは彼らがホテルに戻った後、自主的にミーティングを開き改善点を話しあってくれた事。(実は88号車デメカ君たちは、すでに初日からミーティングをしてくれていました)この時、第2戦デメカの本当の強さを感じました。



## 6月11日(土)

この日は、最初の練習走行枠が昨日より早く8:35～。当然スタッフも7:00前にはサーキット入り。早速メカニックたちは、昨日のセッティングから各部の増し締めやタイヤの空気圧調整などを実施。大分県でも山間部に位置するオートポリスの天候は変わりやすく、いろいろなセッティングを試すには、練習走行1本どころか1分も無駄にできない状況。現に、セッティングを完了しピットロードを出てコースインする寸前で終了となった枠もありました。限られた時間の練習走行だからこそ、メカニックにとっても一つ一つの作業にスピードと正確性が求められます。100分の1秒を縮めるために、走行ごとにドライバーから感触を聞き、プロレースメカニックの方たちが豊富な経験からセッティングを判断し我々デメカに作業指示。時には大きな声が聞こえたり、独特の張りつめた空気の中必死に作業するデメカ達も、いつの間にかプロレースメカニックの顔つきに。昨日とは見違えるくらい作業もスムーズで、チームワークも素晴らしいものでした。そんなデメカの作業にこたえるかのように、2回目の練習走行では、87号車88号車ともに素晴らしいタイムでラップを刻みました。気づけば、夕方の占有走行でも二人のドライバーが上位を狙えるタイムで終了したのでした。



走行終了後もメカニックの作業は続きます。その後は事前車検を受けます。ちょっとした指摘もありましたが無事にパス。車検に付き添った山口メカニックも、「**無事に終わりました**」とほっとした表情で帰ってきました。

しかし簡単にはいかないのがレースというもの。翌日の天候が全く読めず、夕方に雨が降り始めてしまいました。どのくらい雨が降るのか？それとも雨は降らないのか？ウェット？ドライ？各チーム悩みながらレース当日を迎えるために準備を進めています。ピットでは、本番の走行に備えて再度、アライメントの調整を実施。作業が終わるころには19:00を回っていました。レースの準備をしている時は時間が過ぎるのがとても早い！



今回から新アイテム！！87号車 88号車同じデザインで「のぼり旗」を導入！！カッコいい！！



## 6月12日(日) 予選&決勝

朝、ホテル前の路面は濡れている状態でサーキットに向かいました。サーキット付近も昨夜は雨が結構降っていたようで、路面はウェットな状態でしたが、空は少し明るい状況。今日は井口選手主催のイベントも同時開催という事もあり、サーキット入口には既にたくさんのBRZや86が集まっていました。

この日は、8:15からタイヤのマーキング。10:00～公式予選開始となります。

昨日遅くまでアライメント作業を実施した2台。この1日で予選と決勝を実施するという事もあり、朝から各チームの空気はいつもより凛としている。それを肌で感じるメカニック達の表情も朝から真剣！！



タイヤのマーキングが終了するころには、今にも降り出しそうな天候となっていました。メカニックも空模様を気にしながら、最後の調整と各部の締め付け点検。ボディーの拭き上げなど、祈るような気持ちで作業を続けます。



9:30頃、ドライバーの二人も集中モードに切り替わります。そのドライバーが作りだす空気感に、デメカ達も敏感に反応。この緊張感こそレースの醍醐味。まもなく2台のBRZのエンジンがかけられ、いよいよ予選アタック開始です。今回は予選時間の早いタイミングで2台ともアタック開始。1周目タイヤの熱入れが終了すると2周目がアタックです。スタッフ全員がモニターを見つめる中、まずは88号車が通過。**2'07"542** いきなりTOPに表示。そのあとすぐに

87号車通過、**2'07"873** 5番手か6番手くらいの位置に表示されました。息つく間もなく、続々とドライバーの名前が表示されていきます。

最終的に88号車は**3位**、87号車は**14位**で予選終了となりました。

前回同様1秒に22台が入り、たった0.5秒の間に16台以上がひしめく大混戦。メカニック達は余韻に浸る間もなく、すぐに走行後の車両のメンテナンスに入ります。



決勝スタートは14:15頃から。普段ならゆっくり談笑する時間もあるのですが、この日はここから天気との戦いが始まります。予選ドライで終了したにもかかわらず、あっという間にウェットに・・・雨が降ったりやんだりを繰り返し、気温も上がらず。各チームとも決勝のタイヤセッティングに頭を悩ませる時間が続いているようでした。

このころ経験豊富なプロレースメカニックを揃える、我がTeam Takutyは既にタイヤ内圧などデメカに指示が出ていました。デメカもしっかり対応。

準備は完了と思いましたが、またまた天候が・・・決勝スタート前に向けて今度は晴れ間が覗く状況に・・・ドライバーも最終確認で自分の感触をプロメカニックに伝えます。このやり取りからも、今回にかかるドライバーの本気度が伝わってきます。



いよいよコースオープン。オープニングラップが始まりました。メカニックも一斉にスターティンググリッドに移動開始。



オープニングラップを終えてグリッド 87 号車が戻ってきた瞬間。ドライバー久保選手からコース状況の報告。それを受けしっかりと最後の調整を実施し、いよいよスタートです。シグナルブルーで各車一斉にスタート。序盤は混戦で順位の入替わりが激しく、解説のアナウンスも間に合わない状況。そんな中、3 位のポジションをしっかりとキープする 88 号車。87 号車久保選手は 2 台ほど順位を落としてしまい 16 位でレースは中盤に差し

掛かります。88 号車井口選手が 2 位に浮上。画面には 225 号車がクラッシュしている映像が写し出されます。幸いドライバーも無事で車両もレースに影響ない場所に停車している為そのまま続行。レース終盤、タイヤが厳しくなってきた各チーム。大きくスライドするマシンも出る中、トップを走る 199 号車にゆっくりプレッシャーをかける井口選手。久保選手



もここから怒涛の追い上げ、残り 4 周くらいからコントロールラインを通過するごとに 1 台ずつ順位を上げていく会心の走り！！ 88 号車井口選手は一瞬のスキをつけてイン側に、次のコーナーでトップに立った瞬間、ピットから喜びの拍手が巻き起こります。そのままトップで 88 号車が優勝！！

井口選手の地元九州で、イベント開催中、TeamTakuty に初優勝を届けてくれました。

ゴールの瞬間、88 号車担当の東京スバル木下メカニックの目には大粒の涙。私もついつい、もらい泣きしてしまいました(笑)



87 号車も順位を大幅に上げて 12 位でフィニッシュとなりました。

88 号車井口選手は、前回 SUGO に続いて表彰台！ドライバーズポイントも、もちろんトップとなりました。

## レースを終えて

CHIBA SUBARU Racing の活動を応援して下さるお客様や当社のスタッフなど、改めてたくさんの方々の協力でこの活動が続けられている事、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

第 2 戦、私は初めてオートポリスに行きましたが、うわさ通り天候に左右される難しいコースでした。

毎日ホテルから約 1 時間ミルクロードを走りコースに向かいましたが、毎日景色が違いました・・・

このコースで同じ Team Takuty の 88 号車が優勝できたこと、本当に嬉しく思いました。

そして、同時に開催されていました井口選手主催の「AUTOPOLIS 86・BRZ STYLE2023」には、たくさんのお客様に御越しいただき、多くのお客様に応援していただきました。



このようなお客様からの応援をいただくと、このプロジェクトは決して間違っていないと確信できました。

今回、参加したデメカみんなは、本当に素晴らしい動きをしてくださいました。自ら「**勝つために自分たちに何が  
できるか？何が足りないのか？どうしたらよくなるのか？**」毎日終了後に話し合い、日を追うごと、いや時間が経過するごとに素晴らしい動きに変わっていく姿を間近かで見る事が出来ました。きっと今回このデメカ達だからこそこの素晴らしい結果で終わる事ができたのだと思います。

私は、何よりも**メカニックが成長する瞬間**に立ち会えたことは、個人的には優勝よりも嬉しかったかもしれません。改めてこのプロジェクトに参加させてもらっている事に感謝します。



そして、87号車もこのままでは終われません。次回、**第3戦は7月22日～モビリティリゾートもてぎ**で開催されます。Team Takutyは上り調子。この勢いで次回はワンツーフィニッシュを目指します。引き続き、応援よろしくお願いいたします。